

ストリート・チルドレンを生み出す都市下層

—メキシコ市の都市交通網と都市下層の生活に焦点を当てて—

小 松 仁 美
丸 谷 雄一郎

1. はじめに

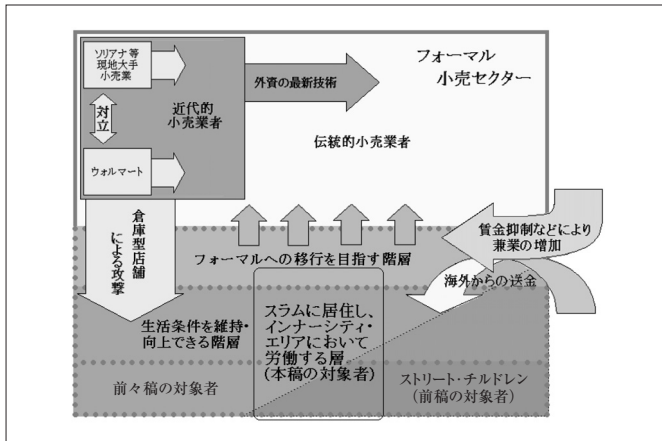
メキシコ小売市場は新興市場の中で近代的小売業者の進出が相対的に進んでいる中南米の主要市場である (Reardon 2003)。近代的小売業者の代表的存在がウォルマートであり、ウォルマートのメキシコ市場進出事例は、グローバル・リテ일러の新興市場進出の成功事例として欧米で注目され (Hill 2004, Thomas and Gonzalez 2006, Durand 2007)、メキシコでの売上高は同社の国際部門の約 4 分の 1 を占め、英国に次ぐ規模となっている。

筆者の一人である丸谷は、ウォルマートのメキシコ市場参入戦略及びその後の適応化戦略を示した上で、同社の進出が小売産業に及ぼした影響に関して、フォーマルセクターを中心に言及してきた (丸谷 2003, 丸谷 2005, 丸谷・大澤 2008)。しかし、ラテンアメリカ諸国を含む発展途上国の小売産業においては、インフォーマル・セクターが多くの割合を占め、彼らは今もなお低所得階層に対する小売産業の主要アクターとしての機能を担っており、低所得階層に及ぼす影響に関してその動態を示すことなしにこの研究を進めることはできない。

こうした問題意識に基づいて、丸谷は従来のインフォーマル・セクターを管理しようとするメキシコシティ当局による政策の変遷 (丸谷 2003)、彼らが消費者の購買行動に与える影響、彼らと近代的小売業者との競合関係 (丸谷 2006, 丸谷 2007b) といった研究に加えて、ストリート・チルドレンに関する研究を通じて上記の階層に接触してきた筆者の一人である小松とともに研究を進めることによって、丸谷のみでは実態把握が困難であったインフォーマル・セクターに従事することが多い層、特にストリート・

前々稿では、インフォーマル・セクターを生業とし、そこで生きていくことしか選択の余地がなく、生活の向上も望みがたい、インフォーマル・セクターの中でも生活条件を向上させていくのが難しい階層に関して、その動態の一部について示し（丸谷・小松 2008）、前稿では、ストリート・チルドレンの労働・生活場所と彼ら・彼女らの出身階層の居住区との関連について、過去に実施された実態調査を踏まえて、筆者の一人である小松が行った実態調査の内容に基づいて、彼ら・彼女らの現状を明らかにしてきた（小松・丸谷 2009）。

図1 本稿の分析対象



家族社会学者オテロ（1999）によれば、ストリート・チルドレンは主と

してインフォーマル・セクターに従事して生計を立て、都市周辺部に位置する不法に開発・入手された土地に集住する都市下層から生み出されている。

1995年に行われた実態調査によると、DFにおけるストリート・チルドレンは、その5割以上がDFの出身者によって占められ、DFに隣接するメキシコ州の出身者を含めると7割以上に達した。彼ら・彼女らの8割弱は家計を助けるために路上において労働を開始し、その一部は主として家庭内暴力を理由に路上生活に至っていた（UNICEF 1996）。

このようにオテロによるストリート・チルドレンの出身階層に関する仮説は、上記の実態調査から検証されているものと考えられる。またオテロは、同調査および都市下層に属する未成年者の経済階層から、ストリート・チルドレンの人数の割り出しを試みていると考えられる。オテロによると、全未成年者のうち、都市下層に属する未成年者は71パーセントを占める。この71%の未成年者は、就学児童でありながら家事手伝いなどのために登校していないなどのストリート・チルドレンになる危険性の高い状況に置かれている、あるいは、既にストリート・チルドレンとして路上において労働・生活している。また、全未成年の56パーセントは、親による労働の強制を伴わない場合も含め、家計収入の低さを背景として未成年路上労働者として働いており、既にストリート・チルドレンとなっている未成年者である。さらに、全未成年者の45パーセントは、親世代の失業や低収入、不安定収入などのために、生活を維持することさえ困難な差し迫った窮乏状態に陥っており、親により路上において労働することを強いられているストリート・チルドレンである（Otero 1999:16-31）⁽¹⁾。

DFにおいては、親世代の不安定収入・不安定就労を背景として、極貧状況にある未成年、あるいは、経済的制約を受ける未成年の大部分が未成年路上労働者としてのストリート・チルドレンとなっているのである。そして、彼ら・彼女らの一部が路上生活者としてのストリート・チルドレンとなっているのである。

(1) 詳しくは、小松・丸谷(2009)を参照していただきたい。

2-2. 都市下層における貧困の再生産過程

都市下層は、主として農村部からDFに仕事を求めてやって来た先住民・零細農民およびその子孫によって構成される。移住者の第1世代は、都市への過剰な人口集中および農村出身者の低学歴などを背景として、フォーマル・セクターに就職する機会を得られず、不法土地開発によって形成された安価な居住地に住むこととなった。第1世代が集住する地域の大部分は、電気やガス、水道、学校をはじめとする社会インフラが不足・欠如していた。移住者の第2世代は、このような生活環境のもと生まれ育つこととなった。第2世代は、第1世代の不安定収入・不安定雇用、および、居住区内に学校がないなどの理由から就学が困難な状況に置かれ、第1世代同様に公教育から疎外されて都市において働くために必要とする職能を十分に身につけることができず、インフォーマル・セクターに従事するか、最低賃金以下で正規に雇用されるか、あるいは失業状態に身を置くこととなった⁽²⁾。

このように都市下層は、親世代の収入の不安定さ・低さを背景として、教育機会を喪失し、就職機会を喪失するために、親世代と同様に都市下層の集住地域に住み続けることとなる。都市下層の集住地域は、時間の経過と共に住民運動や参加型行政などの活動を通じて整備が進む傾向にあるものの、地域によって整備の程度は異なる。整備が進むと賃料が値上がり、より貧しい都市下層はより安い周辺部のより不便かつ社会インフラの整わない地域へと移住を余儀なくされる。

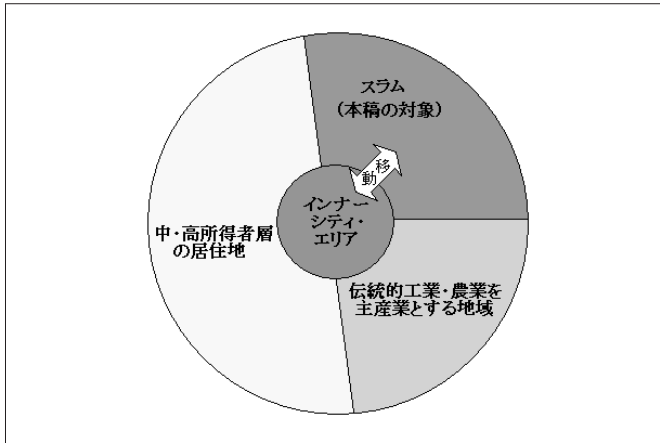
都市下層の内部においても階層分化が進み、その下層においては貧困が堆積され、世襲的に貧困層とならざるを得ない層が存在する。こうした都市下層内の下層から、ストリート・チルドレンは生み出されている。

2-3. 都市下層の集住地域

DFにおけるストリート・チルドレンは、コロニア・ポプラーलと呼ばれる都市下層の集住地域から生み出されている。都市下層の集住地域は、図

(2) 都市下層の成立については幡谷(1999)およびCastells(1977)、都市下層の生活や貧困の再生産に関しては工藤(2002)を参照していただきたい。

図2 都市下層の集住地域を示したZMCMのセグリゲーションに関する簡略図



2 に示した通りDF首都圏⁽³⁾において3つの地域に大別される。1つは、DF中心部に位置する旧市街地のインナーシティ・エリアである。もう1つは、DF東部とその郊外に位置するスラムである。最後の1つは、DF南東部に広がる伝統的工業や農業を主産業とする地域である（山田 1994, INEGI 2007, Murata 2007）⁽⁴⁾。

インナーシティ・エリアは、セントロ（Centro）地区やテピート（Tepito）地区に見るように建設年代が古い街である。そのために自動車社会に適応しておらず、また、パティオをもつ大邸宅は1世帯で住むには維持費がかかりすぎるなどの理由から空洞化が進み、低所得者層が集住するに至った地域である。インナーシティ・エリアにおいては1世帯用に建設された家屋を数世帯から十数世帯で分割して使用するため、大部分の家屋は風呂、

(3) ここで言うDF首都圏とは、都市交通網の発展に伴って既に通勤圏となっているLa Zona Metropolitana de la Ciudad de México(ZMCM)あるいはEl Área Metropolitana de la Ciudad de México(AMCM)と同義であり、地形的区分であるLa Zona Metropolitana del Valle de México(ZMVM)とは区別される。2000年時点においては75のムニンシピオで構成され、人口規模は1800万人にのぼる。

(4) DF首都圏は、比較的明確にセグリゲーションされている。クアウトモク(Cuauhtémoc)市を中心とするDF中心部を核に、DFを南北に走るクアウトモク通りの東側が低所得、西側が中所得ないし高所得と経済・社会階層によって大きく分されている。詳しくは、Murata(2007: 131-52)および山田(1994: 8-56)を参照していただきたい。

トイレや台所などが設備されておらず、生活環境としては非常に劣悪である⁽⁵⁾。

さらに、インナーシティ・エリアは、建設年代が古いために市場やスーパーなどを新たに設営することが困難であり、人口当たりに対してこれらの施設が不足していたことから、インフォーマル・セクターの就労が盛んになった地域である（G.I.Gordon 1997）。そのため、インナーシティ・エリアにおいては、同地域内に居住している者およびスラムなどの他の地域からやってきた者がインフォーマル・セクター下の職に従事している。

スラムは、ネツアワルコヨトル（Nezahualcóyotl）市やバジェ・デ・チャルコ・ソリダリダ（Valle de Chalco-Solidaridad）市、エカテペック・デ・モレーロス（Ecatepec de Morelos）市などに代表されるように不法土地開発によって形成された街である。スラムの居住者の大部分は、インフォーマル・セクターに従事しており、DF中心部のインナーシティ・エリアに働きに出ている。

スラムの居住地開発はDF東部からDFに隣接したメキシコ州東部、メキシコ州に隣接するイダルゴ州の一部にまで都市交通網の発展に伴って徐々に範囲を拡大させてきたため、スラムはインナーシティ・エリアやDF南東部の農村地域に比べると建設年代の新しい。なお、スラムは現在も拡大しているものの、本論文においては既に都市交通網の整備状況を加味してDF東部およびメキシコ州東部に位置する低所得者層の集住地域までをスラムと呼ぶ。

伝統的工業や農業を主産業とする地域は、イスタパラパ（Iztapalapa）市やトラワック（Tláhuac）市、ソチミルコ（Xochimilco）市などに代表されるように、その成り立ち自体が先スペイン期までさかのぼれる一方、人口増加に伴って住宅地としての開発が近年推し進められている街である。宅地開発に伴い、近年では都市交通網も徐々に整備が推し進められ、中心部へのアクセスも改善・向上している。とはいえ、スラムに比べると街が古く人口規模が小さいために道路の整備状況や都市交通網の整備状況は遅れ

(5) DF中心部、特にテピット地区における都市下層の生活の様子、および、生活様式については、オスカー・ルイス（1970）の名著『貧困の文化』を参考にいただきたい。

ている（Boris 2008）。同地域において人々はDF中心部へのアクセスが不便かつ第一次産業を中心としていることから、中心部に働きに出るよりも主に地域内において就業している。

2-4. 都市下層の集住地域とストリート・チルドレン

DFにおいてストリート・チルドレンは、インナーシティ・エリアやスラム、伝統的工業・農業を主産業とする地域から生み出されている。一方において、それぞれの地域におけるストリート・チルドレンを生み出す過程および要因は異なる。そこで、以下では地域ごとにストリート・チルドレンが生み出される過程および要因についてまとめる。

2-4-1. インナーシティ・エリアとストリート・チルドレン

インナーシティ・エリアにおいて居住する子どもの大部分は、その親世代の大部分がインフォーマル・セクターに従事していることをはじめ、インフォーマル・セクター下の労働者と日常的に接触し関わりを持つために、その社会化過程においてインフォーマル・セクターに従事することを「当たり前」とする価値観を身に付ける。また、子どもたちの大部分は、その親世代の不安定収入・低所得のために労働力として駆り出されており、彼ら・彼女ら自身もインフォーマル・セクターに従事することとなる。

このようにインナーシティ・エリアに居住する子どもの大部分は、インフォーマル・セクターへの従事することを「所与のもの」とする価値観の内在化、および、生活・行動形態の中に組み込まれることを通じて社会化される。そのために、成長するに従って親世代同様にインフォーマル・セクター下の労働者となる。特に、親世代の経済的困窮に伴う場合は、家計収入を助けるために路上における労働開始年齢が早まり、未成年路上労働者としてのストリート・チルドレンとなる。

未成年路上労働者は、その年齢によっては発達段階上、親と物理的に離されること自体が虐待となり、親に対して信頼関係を結べなくなる可能性が高い。そのため、低年齢時から路上における労働を開始することは、その子どもが未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンになる高い可能性を持っている。しかしながら、インナーシティ・エリアにおいての居住場所と労働場所が隣接しているため、実際には親子が物理的に長時間

離されることは稀である。親子の紐帯を弛緩させ、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンを生み出す主たる要因は、以下に述べる虐待にある。

インナーシティ・エリアは、その生活環境が劣悪であり、子どもの養育環境として不適切である場合が非常に多い。例えば、住環境における風呂・トイレの不足は、良好な衛生状態を保つ必要のある特に乳幼児期の子どもにとって虐待につながる。また、住環境に台所が不整備の場合は、路上において飲食をするか、飲食物を購入し持ちかえる必要に迫られるため、子どもが成長する上で必要とする栄養素を十分に与えられないと同時に、衛生的にも課題があり、虐待につながる。さらに、一間で家族全員が生活する場合に、幼少期の子どもが眠る室内において親や年長の兄弟が性行為を行うなどの虐待行為が見られる。このように物理的な環境要因のために、インナーシティ・エリアの家庭内においては虐待が日常的に起こり、親子の紐帯は弛緩する。

加えてインナーシティ・エリアにおいては、家庭内においてのみ物理的な環境要因に伴う虐待が起こるわけではない。インナーシティ・エリアにおいては、買春やドラッグの売買などのイリーガルな労働も見られる。子どもたちが通学したり遊んだりする公道や公園には、売春婦やドラッグのバイヤーが立っており、場合によっては子どもたちは彼ら・彼女らから危害を加えられる。具体的には、売春婦から性的暴力を受けたり、バイヤーからドラッグ使用を誘われたりするるのである。

このような虐待を受けても、子どもたちは容易にその経験を伝達し、回復に向けて適切な対応を受けることができない。その背景には、親が共働きで忙しく、子どもの話を聴き対応するだけの心理的・経済的なゆとりを持たないこと、居住区内に公的な相談施設が充実していないこと、幼少期から同じ地域内で過ごすことにより子どもたち自身が即時的な自己を形成しており、親に話すこと自体が「無駄」であると感じていることなどが挙げられる。結果的には、家庭外において受けた虐待による心理的な負担のために親子の紐帯が弛緩する。

家庭内外の物理的な環境要因のために、インナーシティ・エリアの子どもたちは、親にたいして信頼感を持たず、親子の紐帯を弛緩させるために、

未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンに移行する可能性を持っているのである。

さらに、物理的な環境要因以外にも、家庭内暴力、アルコール依存やドラッグ依存などに伴う虐待、親子の世代間格差に伴う虐待などインナーシティ・エリアにおいては様々なタイプの虐待がみられる。これらの虐待は、子どもたちから家庭内における「居場所」を奪い取り、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンを生み出す主たる要因として働いている。

以上のように、インナーシティ・エリアにおいては、経済的困窮およびその特徴的な社会化過程のために未成年路上労働者としてのストリート・チルドレンが生み出されている。同時に、社会的・心理的困窮のために未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンが生み出されている。

2-4-2. スラムとストリート・チルドレン

スラムの子どもの大部分は、インナーシティ・エリア同様にその親世代の大部分がインフォーマル・セクターに従事していることをはじめ、インフォーマル・セクター下の労働者と日常的に接触し関わりを持ち、その社会化過程においてインフォーマル・セクターに従事することを「当たり前」とする価値観を身に付ける。また、子どもの大部分は、その親世代の不安定収入・低所得のために労働力として駆り出されており、彼ら・彼女らはインフォーマル・セクターに従事することとなる。

このようにスラムに居住する子どもの大部分は、インナーシティ・エリア同様に路上における労働開始年齢が早い場合は、未成年路上労働者としてのストリート・チルドレンとなる。一方において、インナーシティ・エリアの子どもたちと異なる点もある。

インナーシティ・エリアの子どもたちはその居住場所と労働場所が隣接しており、未成年路上労働者となっても親と物理的に離されることはない。一方において、スラムの子どもたちはその居住場所と労働場所が乖離しており、未成年路上労働者となるとその大部分が親と物理的に離されて労働することを余儀なくされる。そのため、スラムの子どもたちは、親との紐帯を維持できなくなり、未成年路上生活者へと移行する高いリスクを負っている。

また、居住場所と労働場所の乖離は、子どもが未成年路上労働者として

働かない場合であっても、スラムの子どもたちを未成年路上生活者へと移行させるリスクの1つとなる。

彼ら・彼女らの親世代の大部分は、インフォーマル・セクターに従事するため、DF中心部まで働きに出る。子どもたちの大部分は、幼少期には仕事場に連れて行かれるものの、歩き出したり、仲間遊びを始めるようになり仕事場において面倒を見るのに手のかかる年齢になると、仕事の間、知り合いに預けられるか家に大人不在のまま放置される。居住区内には公的な幼稚園が不足・欠如しており、また経済的困窮から民間の幼稚園や託児所を利用できないのである。そして、近隣に子どもの面倒を見てくれる親類などがいない場合、学童期以降になると通学のため、あるいは、交通費の削減のために一部の子どもたちは家に残されるのである。

家に取り残された子どもたちは、大人の不在からくる心細さに耐えなければならないのみならず、年長者を中心に食事や身の回りの世話をこなさなければならない。しかし、子どもたちだけでは十分に家事を行えない場合があり、なかには空腹や衛生状態が保てない状況に置かれたり、遊び散らかり雑然とした家の状況に帰宅して腹を立てた親に暴力を振るわれたりする者も少なくない。このような虐待を受ける状況下において、スラムに居住する子どもたちの一部は親との紐帯を弛緩させ、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンへと移行していくのである。

また、スラムはその開発の程度によって、上下水道が未整備であったり、道路が舗装されていないなど社会インフラが十分に整備されておらず、インナーシティ・エリア同様に劣悪な居住環境・養育環境となっている。そして、一間や二間しかない家屋に数世帯が暮らす場合もあり、子どもの養育環境として不適切な場合もある。スラムの劣悪な、あるいは、不適切な養育環境は、親子の紐帯を弛緩させる要因として働き、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンを生み出す可能性を持っている。

さらに、スラムにおいては、インナーシティ・エリア同様に、家庭内暴力、アルコール依存やドラッグ依存などに伴う虐待、親子の世代間格差に伴う虐待など様々なタイプの虐待がみられる。これらの虐待は、子どもたちから家庭内の「居場所」を奪い取り、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンを生み出す主たる要因として働いている。

以上のように、スラムにおいては、その特徴的な社会化過程および経済的困窮のために未成年路上労働者および未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンが生み出されている。同時に、社会的・心理的困窮のために未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンが多数生み出されている。

2-4-3. 伝統的工業・農業を主産業とする地域とストリート・チルドレン

伝統的工業・農業を主産業とする地域においては、インナーシティ・エリアやスラムとは異なり、インフォーマル・セクター下の労働者と子どもとの接触は限定的となる。この地域において居住する子どもたちは、その親世代の大部分が伝統的工業や農業に従事しているため、その社会化過程においては、家業の手伝いを通じて第一次産業の従事者となるように価値の内在化がはかられる。そのため、この地域の子どもたちの大部分は、未成年路上労働者としてのストリート・チルドレンにはならない。

また、親子が物理的に近い距離で共同作業を行うため、親子の紐帯も維持されやすい。この地域の子どもたちの大部分は、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンにもならないのである。

一方において、一部の子どもたちは、ストリート・チルドレンとなっている。例えば、経済的困窮が著しいために、未成年路上労働者としてのストリート・チルドレンになった子どものなかには、それまでの社会化過程において内在化してきた価値観を覆され、葛藤モデルのなかにおかれることから、未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンへと移行する者が存在する。また、アルコール依存に伴う虐待や親子の世代間格差に伴う虐待、家庭内暴力などの虐待のために、一部の子どもたちは家庭内に「居場所」を失って未成年路上生活者としてのストリート・チルドレンとなる者も存在する。

この地域から生み出されるストリート・チルドレンは、DF首都圏のなかでも、人口規模が小さく、子どもの社会化過程のなかにインフォーマル・セクターに従事することを「あたりまえ」のものとする価値観が内在化されないために、インナーシティ・エリアやスラムに比べると少ない。一方において、大部分の子どもたちがストリート・チルドレンとならない地域であるために、いったん未成年労働者や未成年路上生活者となると、その

子どもたちの大部分は、出身地域内に帰る場所や拠り所となる場所を再度見つけることが困難な状況下に置かれる。また、伝統的工業・農業を主産業とする地域は、インナーシティ・エリアやスラムと比べてDF中心部へのアクセスが悪いため、いったんストリート・チルドレンとなると、物理的にも帰宅が困難となる。

以上のように、この地域は、ストリート・チルドレンを生み出しにくい仕組みを持っている一方において、経済的困窮や社会的・心理的困窮のために、いったん未成年路上労働者となってしまうと帰宅が困難な状況に置かれ未成年路上生活者へと移こうしやすく、また、社会復帰が難しいという特徴を持っているのである。

2-5. ストリート・チルドレンを生み出すスラムの都市下層

上記してきたように、ストリート・チルドレンは都市下層の集住地域から生み出されると一言に述べても、その出身地域をインナーシティ・エリア、スラムおよび伝統的工業・農業を主産業とする地域に大別すると、それぞれ異なる過程・要因によって生み出されており、生み出されるストリート・チルドレンの様相も異なる。

そこで、本稿においてはストリート・チルドレンを生み出す都市下層に関して、地域別により詳細な検討を加えることとする。尚、紙幅の都合により3地域のなかのスラムに絞って検討を加える。都市交通網という視点からストリート・チルドレンを生み出す都市下層に関して検討を加えるにあたり、居住場所と労働場所が乖離しており都市交通網が発達しているためである⁽⁶⁾。

(6) DF首都圏の人口移動の距離に関しては、Murata (2007) が示したように、スラムと伝統的工業・農業を主産業とする地域との間には大差が見られない。一方、両者の人口規模は大きく異なるため (INEGI 2007)、都市交通網の発達には異なりが見られ、スラムからDF中心部へのアクセスが非常に発達しているのに比べて、伝統的工業・農業を主産業とする地域からDF中心部へのアクセスはさほど発達していない (Boris 2008)。そのため、1日当りの移動人口の量は、両地域では異なり、スラムからの移動人口量の方が圧倒的に高い (Plan Metro 1997)。

3. スラムからDF中心部への移動

3-1. クアウテモク(Cuauhtémoc)市への人口移動⁽⁷⁾

クアウテモク市は、サービス業および商業を中心産業としており、都市下層が従事するインフォーマル・セクター下の就労も盛んな地域である。

このクアウテモク市へは比較的所得水準の高いナウカルパン(Naucalpan)市やミゲル・イダルゴ(Miguel Hidalgo)市、ベニート・フアレス(Benito Juárez)市、コヨアカン(Coyoacán)市などからも人口移動が行われている。しかし、これらの市から同市への移動者は主としてソナ・ロサ(Zona Rosa)に代表されるような新中心地区や高密度の商業サービスを行う地区において労働する中所得者以上の層であり、全体を通して見ると少数である。

クアウテモク市への主たる人口移動は、エカテペック・デ・モレーロス(Ecatepec de Morelos)市、グスタボ・A・マデーロ(Gustavo A. Madero)市、ヴェヌスティアーノ・カランサ(Venustiano Carranza)市、ネツァワルコヨトル市およびイスタパラパ(Iztapalapa)市からである。同市への人口移動は、同市以東の市からの流入が顕著である。

クアウテモク市への人口移動のうち、スラムを代表するエカテペック・デ・モレーロス市やネツァワルコヨトル市からの流入は際立っている。また、流入量自体は2市に比べて低いものの、チマルワカン(Chimalhuacán)市からも流入しており、同市への人口移動はDF東部に広がるスラムからが最も盛んである(Boris 2008: 198-214)。

3-2. エカテペック・デ・モレーロス市およびネツァワルコヨトル市からの移動経路

エカテペック・デ・モレーロス市およびネツァワルコヨトル市は、DF東部に位置するスラムの代表である。特に、人口規模の大きなネツァワルコヨトル市は、1日当りDFへと移動する人口が最も多く、次いで、エカテペック・デ・モレーロス市がチマルワカン市などと並んで多い(INEGI 1997: 30)。

(7) 本節に関してはBoris (2008: 198-214) を参照していただきたい。特に、212- 4 頁の「全交通網における移動者数」に関する地図を参考にさせていただけると幸いである。

これら2市からDFへの人口移動が多い背景には、これら2市がメキシコ州に位置するにもかかわらず、メトロと呼ばれるライトレールが走行しており、他の市に比べるとDF内へのアクセスが容易であることが考えられる。一方において、2市を通るメトロのB号線の利用者数は必ずしも高くない（[afluencia.html](#) 2009）。人々は移動の際に、ペセロやコンビと呼ばれる乗り合いタクシー、および、RTP⁽⁸⁾や民間資本が運営する路線バスを利用し、パンティトラン（Pantitlán）駅やサラゴザ（Zaragoza）駅、ラ・パス（La Paz）駅、サパタ（Zapata）駅などの利便性の高いCETRAM駅にてメトロに乗り換えるものと考えられる（INEGI 1997:35, [estacmenaflu.html](#) 2009, [estacmayafu.html](#) 2009）⁽⁹⁾。

3-3. スラムからDF中心部への移動コスト

スラムからDF中心部への時間的・金銭的移動コストは、決して安価なものではない。1994年時点におけるDF首都圏内における交通移動時間の1日平均は1.84時間であった（INEGI 1997）。当時のDF首都圏は、現在よりも狭く、都市交通網も発展していなかったため、現在のDF首都圏内における交通移動時間は当時のものよりも長時間化しており、かつ、長距離化に伴い交通費も高まっているものと考えられる。

そこで、2009年3月にエカテペック・デ・モレーロスの中心部からクアウテモク市はずれに位置するレボルシオン（Revolución）駅までの時間的・金銭的成本を実測した⁽¹⁰⁾。辿った移動経路は、次の通りである。メトロバス（metrobus）⁽¹¹⁾を利用してレボルシオン駅からブエナヴィスタ（Buenavista）駅まで行き、メトロに乗り換えてB号線を利用してブエナ

(8) RTPは、Red de Transporte de Pasajeros del Distrito Federalの略称である。

(9) CETRAMとは、Centros de Transferencia Modalの略称であり、メトロにおいては現在26駅がCETRAMとして整備されている（[delegacion01.html](#) 2009）。

(10) 実測に際して利用した移動経路は最も単純な経路であるため、実際のストリート・ベンダーが移動する際とは異なる場合があるものの、ここでは、移動コストのおよその把握を目的としているため支障ないものとする。

(11) DFにおいて2005年に交通渋滞の緩和を目的として導入された中小規模の都市および都市近郊における短距離移送システムの1つ。しかし、DFの人口規模や交通量からすると、適切な移送システムではないため、十分に機能していない。一方において、利用料の高さからメトロバス沿線から貧困層を締め出すことに機能的である。

ヴィスタ駅からシウダー・アステカ（Ciudad Azteca）駅まで行き、乗り合いタクシーに乗り換えてシウダー・アステカからエカテペック・デ・モレーロスのセントロまで行く経路である。

実測にかかった移動時間は、1時間半弱であった。セントロという比較的アクセスのよい場所を目的地としたために、比較的短時間で移動できたものと考えられる。しかし、メトロから乗り合いタクシーへの乗り換えにおいては、乗客が一定数を満たすまで発車しないため、筆者が乗り込んだ際には出発まで10分以上待たされた。また、ところどころ渋滞が発生しており、筆者が移動した時間が比較的交通量の少ない午後2時過ぎであったことを考慮すると、朝夕のラッシュ時にはより乗車時間が長くなるものと考えられる。したがって、スラムの居住者は通勤に片道1時間半から2時間半程度かけているものと考えられる。

実測にかかった移動経費は、片道15ペソであった。移動経費に関しては、利用する乗り物や乗り継ぎ回数などによって異なるものの、往復でおよそ20ペソから40ペソかかるものと考えられる。最低賃金水準が1日約80ペソであることを考えると、通勤にかかる交通費は収入のおよそ3分の1に当たり⁽¹²⁾、交通費は決して安価とはいえない。

以上のように、スラムからDF中心部への移動コストは、時間的にも金銭的にも決して低くはないのである。

4. ストリート・チルドレンを生み出すスラムの都市下層

4-1. スラムの都市下層の生活

DF首都圏は比較的明確にセグレーションされているために、スラムに居住する都市下層はDF郊外において不法土地開発によって形成された安価な土地に住み、一方でインフォーマル・セクター下の就労が盛んなDF中心部において労働する。スラムに居住する都市下層は、居住場所と労働場所が離れているために支払わねばならない時間的・金銭的なコストのた

(12) 現在、DF政府が交通運賃の値上げに前向きな姿勢を示している。支出に占める交通費の割合が比較的高い都市下層にとって、交通運賃の値上げは生活への大打撃となる可能性を持っている。

めに、子育てに時間を割くことも、教育投資することも困難な状況に置かれる。

しかしながら、スラムに居住する都市下層の子どもが全てストリート・チルドレンになるわけではない。都市下層の大部分は、増山が指摘するようにファミリア (familia) やタンダ (tanda) の仕組みを利用し、子育てを行い、教育投資できるように工夫している (増山 2001・2004)。

ファミリアは日本語で「家族」を意味するスペイン語であるが、都市下層におけるファミリアは「近住拡大家族」を意味する。近住拡大家族は、ある核家族を中核に、その核家族の近住の血縁世帯 (familia cercana) および信頼の置ける近隣住民 (familia vecindad) によって構成される、地縁を基盤とする相互扶助を行う数世帯の家族の総称である。

ファミリア内においては、スラム内において不足している幼稚園の代替として、あるいは、金銭的に利用が難しいベビーシッターの代替として、子どもの一時預かりや学校への送り迎えなど親の不在時に子どもの世話をする仕組みが見られる。また、文房具や教科書などの使い古しを安価に売買い、教育にかかるコストを削減するなどの取り組みも見られる。

さらに、主としてファミリアを母体としてタンダと呼ばれる講が行われる。都市下層は、子どもの誕生日や祝祭日をはじめとする金銭的に負担のかかる行事などに向けてタンダを利用して貯蓄している。

このように都市下層は、通勤にかかる移動コストからくる負担を軽減し、かつ、社会インフラの十分に整っていないスラムの養育環境下において子どもを育てるために、ファミリアと呼ばれる相互扶助ネットワークを形成し、利用している。ファミリアに組み込まれる家族は、経済的に困窮した場合においては金銭的扶助を受けることができ、また、その核家族内において家庭内暴力が起きた場合においては他の世帯に逃げ込むあるいは相談することを通じて家庭内暴力を回避したり、その被害を緩和したりすることができる。こうした仕組みにより、都市下層の子どもの大部分は路上生活者にならないのである。

4-2. ストリート・チルドレンを生み出すスラムの都市下層の生活

ファミリアの仕組みは、DF中心部に働きに出るスラムの都市下層に

として、子どものストリート・チルドレン化を防ぐ有用な手立てとなっている。親世代の経済的安定や、スラムにおける社会インフラの整備が推し進められることの必要性は言うまでもないものの、現状としては、都市下層にとって彼ら・彼女らが独自に形成したセーフティネットとして一部機能するファミリアの重要性は非常に高い。

しかし、スラムの都市下層には、このファミリアに組み込まれない一部の層が存在する。地方からDFにやってきた際に住み着いた地域に同郷者がいなかったり、仕事の多忙などのために近隣住民との付き合いを十分に行う時間をもてなかったり、極度のアルコール依存や薬物依存などのために近隣住民とトラブルを起こし続けるためにネットワークに組み込まれなくなったり、あるいは他者との関わりを極度に嫌う個人の資質のためであったりとファミリアに組み込まれない理由は様々である。

ファミリアに組み込まれない家族のもとに生まれると、子どもはその親世代が働きに出ている間、必要とする世話を受けることができず、ネグレクトされる。また、経済的にも不安定な、逼迫した状況に置かれやすいため幼少期から働きに出ることを余儀なくされ、その間、成長にとって必要な遊びや学びの時間を奪われ、労働力として酷使される場合は心身ともに成長が阻害される。さらに、親世代が何らかの依存問題を抱えている場合は、家庭内暴力を含む様々な虐待を受けることとなり、大部分の子どもは逃げ場となる場所を持たないためにさらなる虐待の被害を受け続けるか、路上に逃げ出して未成年路上生活者となる以外の選択肢を持たない。

ファミリアに組み込まれない家族のもとに生まれると、子どもは、比較的親世代が経済的・社会的に安定している場合においては問題なく成長することができる。しかし、そうでない多くの場合においては、経済的困窮や虐待の被害のために親子の紐帯を構築・維持できなくなる。また、成長過程において必要とする「信頼できる大人」の存在の欠如のために、他者と自己への信頼感を欠くこととなる。そのために、ファミリアに組み込まれない家族のもとに生まれた子どもは、ストリート・チルドレンとなる可能性が高いのである。

4-3. 未成年路上生活者を生み出したスラムの都市下層の生活史

以下では、ファミリアに組み込まれないスラムに暮らす都市下層の生活実態およびその都市下層の子どもがストリート・チルドレンになる過程について、2003年8月に、DF東部に位置するスラムにおいて行ったオアハカ（Oaxaca）出身の家族の生活史に関する聴取調査に基づいて報告する。

夫妻ディエゴとカミラ⁽¹³⁾は、1985年にメキシコ南部の州であり最貧6州のうちのひとつであるオアハカから職を求めてDFにやってきた。DFに到着してすぐに、夫ディエゴは幸いなことに建築現場で働く作業員としての職を見つけ、妻カミラは夫の収入の不足分を補うために家政婦などの職を不定期に見つけて家計を支えた。幸いにも仕事に就けたのは、夫妻共にスペイン語が話せ、多少の読み書きができたことによる。また、ディエゴは小柄ながら頑丈な肉体に恵まれていたためである。

2人は共に働きながら、掘っ立て小屋を立てて暮らし始めた。山際の上下水道も通っていない場所であったが、資金をためては建築資材を購入し、徐々に小家を拡大させていった。小家の外観もなんとか家らしくなってきた一方で、ディエゴは肉体労働のきつさからくる疲れを癒し、また、働いても働いてもTVで見るような豊かな生活には一向に近づかない焦燥感を忘れるために酒に手を出し始める。ディエゴの度重なる飲酒のために、家計は徐々に逼迫し始める。

その頃、カミラは第1子、第2子を立て続けに身篋ったため、働きに出ることができなくなり、家計はさらに逼迫する。ディエゴは、経済的な困窮のために、飲酒の頻度を高めると共にカミラに対して暴力や暴言を吐くようになる。カミラは、夫からの家庭内暴力による肉体的・心理的被害からのとう逃するため夫同様に飲酒を開始する。

2人がアルコール依存に陥りつつあったこの時期に、ディエゴは労働災害によって肢体不自由となる。一家の大黒柱を失い、家計はカミラの細腕1本にかけられることとなる。カミラは、住み込みの家政婦の仕事を見つけ、働き詰めに働くようになるが、帰宅すると飲んだ暮れの夫が待っていると思うと理不尽な気持ちに苛まれるようになり、アルコールへと手を伸

(13) 人権への配慮から、全ての人物名は仮名とし、個人が特定される可能性の高い情報に関しては掲載していない。

ばす回数を増やすようになり、仕事がおぼつかなくなり、ついには職を失う。

この間、2人の子どもは成長し、長男ヘラルドは5歳に、次男カルロスは4歳になっていた。2人とも、ストリート・ベンダーとして働ける程度に成長していたために、ディエゴとカミラは2人をDF中心部に連れて行き、飴やガムなどを売り歩かせるようになった。

しかし、幼い子ども2人にとって家族4人の生活を支えるために十分な稼ぎを得ることは容易ではなかった。稼ぎが十分ではない場合、ヘラルドとカルロスは両親から罵声が浴びせられ、暴力を振るわれることもしばしばであった。それでも、2人は毎日働きに出続けた。2人とも近所に同年代の子どもがいたにもかかわらず、物心つく頃には働きに出るか、酒を買い出すために使いにやらされるなどして、遊んだことがなかった。働くことや虐待に遭うこと自体を「あたりまえ」のこととして受け入れるようになっていたのである。働きに出れば、2人と同じような事情で働く同年代の子どもや年上の子どもに囲まれていた。こうしたなか、同様に働く年長の子どもから「路上で一緒に暮らさないか」と誘いの言葉をかけられ、虐待が待つ家に帰ることをやめ、2人はストリート・チルドレンとなった。

ディエゴとカミラは移住先のDFに親類や同郷の者がいなかったために、孤立した生活を送り始めた。しかし、DFでの生活を開始した直後は仕事に恵まれていたため、生活は順調であった。一方で、仕事からの鬱憤を酒で晴らし始める生活が始まると、徐々に一家の生活にほころびが出始め、ディエゴの失職を機に生活は一気に破綻していく。ディエゴとカミラのアルコール依存のために、2人の子どもは家庭内に居場所を失うと同時に、労働力として酷使され、両親への信頼を失い、未成年路上生活者となる。

もし、一家がファミリアに組み込まれていたなら、飲酒をとがめられたり、労働災害に遭った後の経済的困窮を支えあったり、子どもたちは虐待から逃れるために他の世帯に逃げ込むことができたであろう。しかし、ファミリアは所与のものとして存在するのではなく、個々の家族が必要に応じて努力して築き上げて行くものであるため、スラムのなかには一家のようにファミリアに組み込まれない家族が点在し、ストリート・チルドレンを生み出している。

5. むすびにかえて

都市交通網の発展に伴い、DF首都圏は拡大し続けており、現在ではイダルゴ州の一部までがDFの通勤圏となっている。通勤圏の拡大は、居住場所と労働場所を乖離させることにより、都市下層の通勤にかかる時間的・金銭的負担を増大させた。幼稚園や学校、育児相談施設などの社会インフラが整わないスラムにおいては、自助努力によって子どもの養育のための相互扶助ネットワークを築かねばならない。スラムの都市下層の大部分は、地縁・血縁によって結ばれた近隣住民を主体とした相互扶助ネットワーク、ファミリアを形成し、子育てを円滑に行う工夫をしている。

一方において、都市への移住の際に親類や同郷者がいない、あるいは、人付き合いが苦手といった個人の資質などのためにファミリアに組み込まれない家族が存在する。こうした家族において経済的困窮や社会的逼迫に伴い虐待が起きると、子どもは家庭内に「居場所」を失い、ストリート・チルドレンとなる。

ストリート・チルドレンを生み出さないためには、都市下層の集住地域内の社会インフラを整えるとともにファミリアに組み込まれない特定の家族に対する支援を充実させ、さらに、現在行われているメトロ12号線の開通をはじめとする都市再開発の際には、DF首都圏内のセグリゲーションを緩めるように交通網の設計を行う、あるいは、サンタ・フェ（Santa Fe）地区に見るようにスラム内に大量の人員を労働雇用できる場所を作り出すなどの施策が必要とされている。

<主要参考引用文献表>

- Boris Graizbord, 2008, *Geografía del transporte en el area metropolitana de la Ciudad de México*, México.D.F. : El Colegio de México.
- Cedric Durand, 2007, *Externalities from foreign direct investment in the Mexican retailing sector*, UK ; Cambridge Journal of Economics, 32 : 393-411.
- Centro de Estudios para la Zona Metropolitana, A.C., 2007, *La Incidencia delictiva en la ZMVM: una Asignatura Pendiente*, METROPOLI 2025.
- Charles W.L.Hill, 2004, *Wal-Mart's Mexican Adventure, Cases in strategic management(6thed.)*, Houghton ; Houghton Mifflin.
- Comisión Para el estudio de los Niños Callejeros (COESNICA), 1992, *Ciudad de México: Estudio de los Niños Callejeros*, México D.F. : COESNICA.

- Desarrollo Integral de la Familia (DIF), 2004, Programa de Prevención y Atención a Niños, Niños y Jóvenes en Situación de Calle “De la Calle a la Vida” Marco General de Operación, México : DIF.
- , 2006, “*Children of the street a la Vida en el Distrito Federal*”, México, México D.F. : DIF.
- Douglas E. Thomas and Fernan Gonzalez, 2006, *Wal-Mart Mexico-2005, Strategic Management Cases (11th ed.)*, Pearson Prentice Hall. (=2007, 平野雅仁訳「ウォルマート・メキシコ社2005年」『経営戦略ケース集』中央経済社。)
- Gary Isaac Gordon, 1997, *Pesos and Power: the Political Economy of Street Vending in Mexico City*, Chicago : The University of Chicago.
- 幡谷則子, 1999, 『ラテンアメリカの都市化と住民組織』古今書院。
- Instituto Nacional de Estadística Geografía e Informática (INEGI), 1997, *Plan Metro*, México D.F. : INEGI.
- , 2007, Anuario Estadístico Distrito Federal Edición 2007, México D.F. : INEGI.
- Jorge Legorreta, 1989, Transporte y Contaminación en la Ciudad de Mexico, Mexico : Centro de Ecodesarrollo Altadena 8.
- , 1994, Efectos Ambientales de la Expansion de la Ciudad de Mexico, 1970-1993, DF : Centro de Ecología y Desarrollo.
- 小松仁美, 2008, 「『貧困の文化』の視点からみるストリートチルドレン問題——現在のメキシコ連邦特別区 (DF) の事例研究より」『淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要』15 : 21-140.
- 小松仁美, 丸谷雄一郎, 2009, 「メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件」『国際問題研究所紀要 (愛知大学)』133 : 87-119.
- 工藤律子, 2002, 『仲間と誇りと夢と』JULA出版局。
- Leticia Hernández Blas, 2007, *Educación Vial desde la Perspectiva del Trabajo Social. “Mujeres y Niños que Utilizan el Cruce Av.Reforma y la calle Francisco González Bocanegra”, en la Delegación Cuauhtémoc, México, DF.*, México D.F. : UNAM.
- Luis Leñero Otero, 1994, *Las Familias en la Ciudad de México*, México : Instituto Mexicano de Estudios Sociales, A.C..
- , 1999, *Los Niños en la Calle y de la Calle: Problemática y Estrategias para Abordarla, México*, México D.F. : Academia Mexicana de Derechos Humanos.
- Manuel Castells, 1977, *La Question Urbaine*, Paris : François Maspero. (=1984, 山田操訳『都市問題——科学的理論と分析』恒星社厚生閣。)
- Maria Anastasia Aguilar Perales Ramirez Gonzalez Nelly, 2001, *Estudio Critico de Tres Programas de Instituciones que Brindan Atención a los Niños de la Calle, en la Calle y Callejeros para Analizar si Cubren las Necesidades Integrales de los Niños*, México D.F. : UNAM.
- 丸谷雄一郎, 2003, 『変貌するメキシコ小売産業——経済開放政策とウォルマートの進出』白桃書房。
- 丸谷雄一郎, 2009, 『ラテンアメリカ経済成長と広がる貧困格差』創成社。

- 丸谷雄一郎, 大澤武史, 2008, 『ウォルマートの新興市場参入戦略』芙蓉書房。
- 丸谷雄一郎・小松仁美, 2008, 「メキシコ合衆国におけるストリート・ベンダーに関する一考察——生活条件を向上させていくのが難しい階層のライフヒストリーから」『愛知大学国際問題研究所紀要』第132号: 73-99.
- Masanori Murata Okita, 2007, *Sistemas de transporte y su impacto en la estructura urbana de las ciudades de México y Tokyo en el periodo de 1980 al año 2000*, México D.F.: UNAM.
- 増山久美, 2001, 「メキシコ市南東部の子どもたち——『下層』における事例研究」『ラテンアメリカ研究年報』21: 6186.
- , 2004, 「メキシコ市「大衆地区」における近住拡大家族」『家族社会学研究』16 (1): 7182.
- Oscar Lewis, 1959, *Five Families*, New York: Basic Books Inc. (=1970, 高山智博訳『貧困の文化』新潮選書。)
- Pompeyo Campos Cedillo, 2001, *Los Niños en la Situación de Calle en la Ciudad de México, Causa y Alternativas de Solución*, México D.F.: UNAM.
- Sergio Peña, 1999, *Informal Markets Organization: Street Vendors in Mexico City*, Florida: the Florida State University.
- Thomas Readon・C.Peter Timmer・Christopher B.Barrett, 2003, *The Rise of Supermarkets in Africa, Asia and Latin America*, American Journal of Agricultural Economics, Vol.85: 1140-6.
- UNICEF, 1996, *II Censo Niños y Niñas en situación de Calle: Ciudad de México*, México D.F.: UNICEF.
- 山田睦男他, 1994年, 『ラテンアメリカの巨大都市——第三世界の現代文明』二宮書店。
- Yolia Niñas de la calle, A.C., 2006, *Diferencias entre Niños y Niñas En Situación De Calle Del Distrito Federal: Una Aproximación Cualitativa, la ciudad de México*, México D.F.: Editorial Ralfvih, S.A.deC.V..
- La JornadaDiario
- “En la ciudad de México hay 20 mil niños en situación de abandono: comisión de la ALDF: Siete por ciento de ellos viven en coladeras o lotes baldíos, advierte su presidente”
- <http://www.jornada.unam.mx/2007/06/26/index.php?section=capital&article=032n1cap>
(2008/10/01)
- Proceso.com.mx
- “Se estima que unos 20 mil menores padecen situación de calle”
- <http://www.proceso.com.mx/noticia.html?sec=4&nta=51875&nsec=La+Capital>
(2008/11/04)
- Metro de la Ciudad de México
- “Estaciones de menor afluencia promedio en día laborable durante el 2007”
- <http://www.metro.df.gob.mx/operacion/estacmenaflu.html> (2009/ 6 /18)
- Metro de la Ciudad de México
- “Estaciones de mayor afluencia promedio en día laborable durante el 2007”

ストリート・チルドレンを生み出す都市下層

<http://www.metro.df.gob.mx/operacion/estacmayafllu.html> (2009/ 6 /18)

Metro de la Ciudad de México

“Afluencia de estación por línea en el 2007”

<http://www.metro.df.gob.mx/operacion/afluencia.html> (2009/ 6 /18)

Secretaría de Transportes y Vialidad

“Centros de Transferencia Modal (CETRAM) (Paraderos)”

<http://www.setravi.df.gob.mx/cetram/delegacion01.html> (2009/ 6 /18)

Un estudio sobre la clase popular que produce a los niños de y en la calle

—Enfoca de la red de transporte de la ZMCM y la vida de la clase popular—

Hitomi KOMATSU

Yuichiro MARUYA

Con el desarrollo de la red de transporte, La Zona Metropolitana de la Ciudad de México(ZMCM) continúa aumentando del area, y acualmente mundo desplazamiento entre el domicilio y el lugar del trabajo incluye hasta una parte de Hidalgo. Por el aumento de la ZMCM, el domicilio ha separado progresivamente del lugar del trabajo. Por lo tanto la clase popular tiene que pagar el costo para tomar medios de transporte más y más, y tambien tiene que tardar el tiempo para ir al lugar de trabajo.

A propósito en la colonia popular no hay o falta infraestructura social como un jardín de infancia y una escuela, una institución de consultación sobre cuidado de niño etc... Por lo tanto la clase popular debe construir la red de ayuda mutua para cuidar sus hijos y hijas por un esfuerzo de mismo-acto. Formó la red de ayuda mutua "Familia" que una familia nuclear organizó con la familia cercana y con la familia vecindad. Luego hace un dispositivo para realizar el cuidado del niño fácilmente.

Sin embargo hay algunas familias que no tienen "Familia" en la colonia popular. Porque no hay ninguna persona del pueblo y/o del relative, o porque la característica personal como insociable. Cuando el abuso, la violencia y maltrato pasa en estas familias que no incluyen en la "Familia", los hijos pierden "un lugar para quedarse" en su familia y van a salir de la casa a la calle.